

ようこそコウノトリ

八田 七郎右エ門

初代の県鳥であった特別天然記念物コウノトリが三たび本県にその優雅な姿を見せた時の県民の感情が表題のことばとなって報道陣をにぎわした。今冬のこのコウノトリを中心にして少し述べて見たいと思う。

1. 生息の経過

明治の初期には全国的に生息繁殖していたらしく、徳川將軍の御猟日誌にはタンチョウヅルやコウノトリが記録されている。中期以後は狩猟法の中での保護対策が不十分であったので数少ない本種が急速に姿を消した。

第1回コウノトリの出現は昭和32年武生市矢船町での営巣でクローズアップされた。それ以前も大きな鳥として見ていた人はあったようである。続いて小浜市での生息が報道され、兵庫県豊岡市も古くから生息していることが知らされ、保護思想と対策が急速に盛り上がってきた。小浜市ではヒナの誕生もあったが成鳥となられず、武生市でも産卵はしたがヒナを見ずに、昭和40年には本県から姿を消し、県民を淋しがらせたものである。

第2回目は、5年ぶりで、45年12月5日山間部ではあるが武生市白山地区に姿を見せた。発見当時は雪まじりの寒風の中での観察であったのと、下嘴が欠損していたのとでややみすばらしい思いがした。心得があってすぐに給餌等の保護対策が立てられたが、採食困難であり農業汚染の心配もありまた、豊岡市が積極的な保護としてケージ内で人工飼育を行っているのでそこへ引き取って貰うことになり、捕獲策戦といわれた苦勞の結果、目的を達することができた。ケージの中では個別のオりに三羽いれてカップルの誕生を待ち、今年に期待しているという。尚、欠損した嘴は長い方を切除して揃えたが切った上嘴は少し伸びている由事故による欠損箇所は伸びないそうである。

第3回目は、今冬の6年ぶりの出現でもしかしたら3羽ではないだろうかと論議している。即ち、最初の確認が51年12月23日で芦原町牛山地区の国道303号の東側の凹地の水田である。自然保護課の林さんや野鳥の会員がカメラにもおさめた。25、26両日小生は確認できずその後会員も見っていない。多分渡りの途中であったのだろうと考えていたところ翌52年1月25日武生市横市町に発見の報を受け、その後3月13日まで場所を変え、塚町で厳しい冬を過ごした。この間またもや北潟湖西方に出現し、武生市との同時観察だから2羽に間違いはなかった。この中のどれかが12月の1羽かどうかが問題であるが、観察した会員は確実な比較資料もないが異った感じを得ていて、2羽は確かであるいは、3羽かも知れないということである。

2. 武生市コウノトリの保護と観察

武生市教委の人と観察に出かけたのは26日午前でまだ霧の立ちこめている時であった。到着して昨日見たのはここだと言っている間に飛来して雪上に下り立った。久しぶりのお目見えだが堂々の体軀と見えた。田の中を流れる水路伝いに観察者のいる民家のすぐ後ろの50mぐらいの近くまでやってきて間近に見ることができた。飛来直後で人おじしないのだろう。観察者がふえて来てレンズを向けるようになると警戒して遠ざかるようになる。

特殊鳥類に指定されている文化財であるために、以前の経験の効により市教委では早速保護対策を練り、午後には市内の有志の方よりコイ・フナを頂いて水路に入れる。翌日は12匹のうち小型のもの5匹がなくなっており採餌したものと考えた。30cm近くもあるコイだけが残されていた。27日にも第2回の給餌をする。

28、29日と姿を見ず、これも立ち寄りだったかと付近の人にたずねると、塚町の水田の中に立つカキの木の上で見ついているということだったが、違わず塚町北方の雪上に発見する。林さんと同行した30日のことである。瓜生社会教育課長も通報を受けてやってこられ、区長さんや関係の方に保護について依頼する。思うに横市町の方は三方を家に囲まれ、四周を自動車も走り騒々しくて適地でなかったのであろう。

3. 塚町にて

塚町西方の雪上に居るという報せは市役所に勤務しておられる大西さんからであった。その場所は塚町・高木町・長土呂町に囲まれた1km四方程の広さで用水路やわずかだが立木もあり、すでに3日間同一地点で確認しているので、生息条件もよさそうだし降雪時なので給餌をしようということになる。大西さん宅はこの広場の先端であり鳥のいる場所にも近く、更に有難いことにはご主人が冬期は在宅されて面倒を見てやろうと積極的に申し出てくださいと誠に好条件が揃い、関係者一同が喜んだものである。

材料の提供まで頂いて用水路に100mの間隔を置いて堰を設ける。ここで餌付けば保護観察を続けられるわけである。

4. 保護と観察

主に動物性の食性であるために、北潟湖よりフナを購入する。降雪のために市教委の車も1日がかりという苦勞であった。1日に5〜6匹を大西さんが堰に放流してくださることになる。積雪のため水面に下りて採餌する現場の目撃はできなかったが、放流現場にはよく入り、時間もかけており捕食はしているものと話し合う。流れには浅いところやマコモの残茎などのよどみもあったが更にコンクリートブロックを入れてよどみを増補してやった。家の池にフナがいるからと電話を頂いたり、持参してくれる学童もあって好意を有難く感じた。

鳥の行動範囲は普通川に沿って700m程を上下しており、飛翔する場合も地上すれすれである。人におびえた時はかなり飛ぶが地域を離れることはなかったようである。

電車通勤されるご婦人が車中からでは物たりなく徒歩で楽しまれたり、国高小に通う子等も声高に見ながら近くを過ぎても落ちついているのだが、カメラは寄せつけない。翼を広げると2mもの大型鳥だが安全圏では1000ミリの超望遠レンズでも物になりにくい。

大西さん方も観鶴の楽しみが日課の一つになられたようで訪れるたびに1日の行動を手にとるように知ることができた。また大西さんの作業場が恰好の溜り場となり、暖房やお茶のサービスもあって町内のお年寄りや1日見ようと日曜日には30人近くも集まられる日が度々であった。

5. 高木町西方にて

雪どけが進みブルドーザーが入るようになって3月2日には高木町の方へ移ったようで姿が見えなくなって8日に発見した。雪どけの水面も多く、カラス・カモ・サギ・トビ等採餌に集まっているところで安心する。14日以降姿を見ず他の地域からの報せも受けず、北方へ向かったのではと、報道されたとおりである。

6. コウノトリは渡り鳥か

ツグミのように冬鳥と言い切れないような気もする。夏季に飛来したり、営巣があった事実を勘案するわけだが、今7羽程度記録されているものが夏季には姿を消し冬再び訪れることが繰り返されるならば冬鳥といえる。果たして北方の生息数はどんなものか知りたいものである。

1月25日から3月13日までの厳冬を乗り切ったコウノトリは無事に育って次はペアで来てくれというのが大方の願いである。それにしても3回とも武生とは、と不思議がり、また喜ぶ武生市民である。

7. 心配であったカモ網

この辺一帯水田にはカモ猟の網が張りめぐらされ、降雪後も放置されていて他のマガンや小鳥がかかったりで心配だが幸いに事故もなかった。カモ網には問題があると感じた。

この期間中関係機関特に毎日お世話くださった大西さんや温かく見守ってくださった方々のご協力にお礼を申し上げ、コウノトリの生命の永遠であることを祈る次第である。

福井県文化財保全審議員